

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・山田	写真・北村、後藤
山行番.	2039	
日 時	2023 年 10 月 14 日 (土) 晴れ	
山 域	日向八丁尾根・日向山 (1660m)	
コース	長泉 (5:00) - 竹宇駐車場発 (7:50) - 矢立石登山口 (8:45) - 三角点 (10:35) - 日向山 (10:40) - 昼食 (10:40-12:20) - 三角点 (12:21) - 矢立石登山口 (13:25) - 竹宇駐車場着 (14:20) - 尾白の湯 (15:00-16:20) - 長泉 (19:00)	
標高差	上り・下り = 約 973m (累計)	
データ	長泉町 ~ 竹宇駐車場	
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<h2>少し早い紅葉とキノコ鍋を満喫</h2>		
参加者	参加者 後藤 (CL)、加藤、星、北村、伊藤、山田由、山田敬 = 7 名	

今年の夏は暑かった。夏だけでなく 9 月も暑かった。確実に 9 月まで夏だった。10 月になったら、朝晩の気温が下がりはじめ、幾分過ごしやすくなってきた。山にも行ってみたいと思える気候だ。ハイキング日和。そして、今日は日向山。尾白の駐車場に来たのは、去年の鞍掛山以来だった。



(北村)

(北村)

この駐車場は結構広く、誘導の方も立っていたりするときもあるが、無料。甲斐駒に行く登山者もいるので、終日無料で駐車できるのは、ありがたい。我々が到着した 8 時前には、すでにたくさん車が止められていて、入り口から奥の砂利のエリアに駐車。

今日は総勢 7 名。やや多めのパーティだ。前日、燕岳から戻ったばかりの K さん、H さん (すごい!)、まだ山に慣れていない私の妻も参加しているので、一般道を上って、同じルートを下る安全なコースに行く。

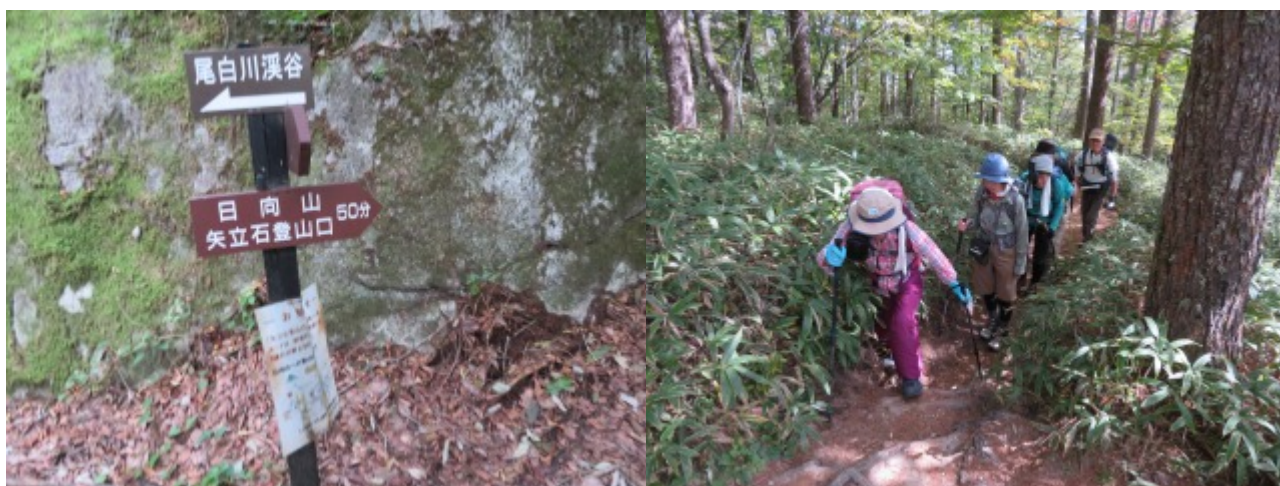
駐車場を出発して、矢立石登山口までが、約 1 時間。一旦ここで林道に出るので、まだ序盤のイメージがあるが、この登山口までに約 300 メートル登っており、スタートから頂上までの行程の約 3 分の 1 まできているというのが、この日向山の登山のやっかいなところ。

登山口の前にすでに登山は始まっているのだ。矢立石登山口についたら、しばし休憩。

歩きだしたら暑い。上着のシャツを脱いでTシャツで行動することにした。喉も結構渴く。各自コンディションを整えて、山頂に向けて出発。

私は前回、鞍掛山に行ったときに日向山も登っている。しかし、その時はバリエーションの錦滝を登っていくコースだったので、この一般道を登ったことはない。ただ、歩いてみると石ころや木の根などが多いわけではなく、比較的歩きやすい道だった。

私は先頭でGさんが2番目で歩く。自分たちのペースで歩くと、どんどん女性陣との差が開く。女性陣はお話しながら、花を見ながら、キノコを探しながら歩いて、忙しい。距離が開くと、休憩かねて、女性陣を待つ。女性陣が追いつくと出発してしまうので、休憩が少ないと女性陣からクレームがくる。



あまり停滞していると体が冷えるし、ペースがつかめなくなるというのが先頭チームの言い分。結局、両者折り合うことはない。でも、山頂をめざすのは同じ。だから、とりあえず歩き出しましょうということになる。これは山の会あるあるなのかな、なんてことを考えながら、つづら折りの道を登っていたら、三角点近くまで来ていた。

今日の山行のテーマの1つは、地図読みで、三角点を探すことだった。想定としては、山頂とは違う位置にある三角点。地図を見ながら探すということだった。が、道中に見て見ぬふりができないほど大きく「三角点はこちら」の標識が出ていた。

ということで、地図を読まないまま三角点に到着。三角点の横で「三角点はなんのためにあるのか知ってますか？」とGさんが問いかけた。

すると「えー知らない」と同じ頃に三角点に到着してきた女性の登山者の方が反応。「三角点は山頂を示すものじゃなくて、「地形の歪」を測る測量のためのものなんだよね。」「へーそうなんだ」「三角点も一等から四等まであって、全部同じじゃないんだよね」「ぜんぜん知らなかったー」と見事な掛け合い。

これ、なにかに似ているなと思ったら、夢グループの社長と女性アシスタント（←歌手らしいが）のTVショッピングのCMだった。いい聞き手もいてくれたお陰で、三角点についての知識もしっかり頭に入った。三角点から歩いて数分で山頂到着。



三角点



講習会?? (北村)

青い空。白い雲。紅葉のはじまった日向八丁尾根。甲斐駒。八ヶ岳。すばらしい眺望。ずっと視界の狭い樹林帯を進んで「なんなのこの単調な登り～」と思って嫌になりそうなころ頃に、山頂でいきなり視界がわーっと開ける。

ドラマチックな展開。足元は白い砂浜。いい天気、いい気候の時に来れてよかった。日向山の山頂に着いた人たちが山頂に来て、ワーッと明るい笑顔に変わる瞬間は見ているこちらにも幸せな気分になる。



花猪口



きのこ鍋



富士山



甲斐駒 (北村)



雲がイイね



よよ～よおお、お二人さん！！

景色だけでも十分だが、今回はもうひとつお楽しみがある。キノコ鍋だ。鍋の道具も具材も燃料も持ってきてくれた鍋奉行を超えた鍋將軍のKさん。ありがたい。

私は、なべちゃん、なべちゃんとはよく呼ばれるが、実は本当のなべちゃんはKさん自身のことではないか。

そんなことを考えているうちに、キノコ鍋はできあがり、ちょっと冷たい山頂で、温かいキノコ汁がいただけた。キノコは登りの道中で女性陣が採ってくれたハナイグチと、Kさん持参のキノボリイグチ。あとシメジ、油揚げ、味噌で仕立てて絶妙な味付け。おいしい。お腹もしあわせだった。

いろいろ満たされたので、下山開始。下山しながら、前回の「クモイコザクラ」を見に行った鞍掛山のことをまた思い出す。あの時は膝が痛くて辛かった。それに比べれば楽勝だ。

下って、下って矢立石登山口。ここで地元のきのこ狩りのプロ（のような風貌）の方々に会う。「採れましたか？」と聞いたら「ぜんぜん。今年は（暑すぎて）土がカラカラでダメ。」とのことだった。やっぱり今年の夏は暑かった。

そして14時20分頃。無事、駐車場に到着。帰りは八ヶ岳を眺めて入れる露天風呂がある「尾白の湯」で温泉に入った。ババさまの「おじろ」で頂いた割引券を利用した。食事もお酒も飲んで、早めの帰宅。平日の疲れを癒すのに最高の1日だった。



追記（後藤）

尾白川渓谷駐車場には、「おじろ」茶屋がある。茶屋には、ババさま（鈴木令子さん・享年74歳）がいた。わが会のK姉御と同年だった。

甲斐駒・日向方面に入る時は、必ず寄って、世間話・情報入手をした。概ね寒い時が多いので、ストーブを囲むと、お新香・お茶をサッと出してくれた。話好きで離れ難かった。

最後に会ったのは、昨年、鞍掛山に上った時だった。恐らく既に調子が悪かっただろう。写真は拒否だった。今回、寄った時、ババさまは居なかった。代わりに、長男の嫁さんがいた。

聞けば、ババさまは、今年1/17に亡くなったという。半年の間に急逝した。肺がんだった。タバコは好きだったようだ。また、寂しくなったなあ。合掌